

Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより 令和4年度 1月号
HP:<http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

校長先生 全校集会 講話 令和5年 1月 10日

皆さん新年明けましておめでとうございます。冬休みはリフレッシュできましたか。年末年始の人流によりコロナ禍第8波とインフルエンザの同時流行が今後懸念されます。年度末の大事な時期、一層の感染予防対策の徹底をお願いします。

さて、1年のスタートに際して、今日は2つ話をします。

1つめは、「学び続けること」についてです。昨年の流行語の一つに

「リスキリング」(リ・スキル・イング：再びスキルを身に付けること)

がありました。もともとは企業の人材戦略の一つで自社社員の能力を再開発し、時代に即したスキルを身に付けさせて、新たな仕事や職種に携わることを推進する取組のことです。新たなスキルアップのためには学び直し、学び続けることが不可欠です。私自身の専門は英語ですが自分自身の日ごろ

の学びへ向かう姿勢はどうかと、自戒を込めて話をします。もっと勉強していればよかった、いや、今からでも遅くはないと強く感じ心新たにしました次第です。

そのきっかけとなったのが、昨年のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』でした。皆さんの中にもはまった人がいたかもしれません。大河ドラマは初回を観て挫折することが多いのですが、三谷幸喜さんの脚本ただただクライマックスのラストシーンまで引き込まれました。頼朝の死前後の北条義時の変化、父時政・長男泰時との親子、政子との姉弟、そして御家人等親友との関係、登場人物の心情とセリフ、史実の解釈等を知るにつれて、「もっと高校時代に深く学ぶべきだった」、「新たに学びたくなった」と感じました。しかしこれは「日本史」に限ったことではなく、例えば佐渡で生活してから改めて「地学」や「古典」を学び直したいとか、専門の英語力をもっとブラッシュアップして若い頃のように海外を旅してみたいという気持ちにもなりました。

ややもすると日ごろの勉強が目先の受験勉強のためのものと捉えがちですが(とはいえ進路決定のための学習や教養にも繋がり、決して間違いではないが)「社会人として身に付ける教養」のために、「学び続けること」は不可欠であること、いつでも、いつからでも「学び直し」ができるということを皆さんに理



解してほしく、学びを深めていく最適の新年スタートだと感じてくれたら嬉しいです。

2つめは、相田みつをさんの『負ける練習』という詩を紹介します。昨年度の冬休み前全校集会講話でも相田さんの『いのちのバトン』という詩を紹介しましたが覚えていますか。短い言葉の中に私たちの心の奥深くまで染み渡る温かみのある詩を独特の文字で表現しています。『負ける練習』・・・親として、教師として、子育ての指針として、自分自身に戒めてきた相田さんの言葉の一つです。一節を読んでもみます。

「負ける練習」 受身・負ける練習

柔道の基本は受身

受身とは投げ飛ばされる練習 人の前で叩きつけられる練習

人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です。

つまり、人の前で失敗をしたり、恥をさらす練習です。

自分のカッコの悪さを 多くの人の前で、ぶざまにさらけ出す練習

それが受身です。

長い人生には

カッコよく勝つことよりもぶざまに負けたり

だらしなく恥をさらすことのほうが、はるかに多いからです。

そして

負け方や受身の ほんとうに身についた人間が

世の中の悲しみや苦しみに耐えて

ひと（他人）の胸の痛みを 心の底から理解できる

やさしい暖かい人間になれるんです。

そういう悲しみに耐えた 温かいこころの人間のことを

観音さま、仏さま、と呼ぶんです。

続いて、この詩の相田さんの「解説」に共感したので以下抜粋して紹介します。

「(前略) わが子が一人前の大人になって活躍しなければならない二十年、三十年先の世の中がどう変わってゆくか? 予測できるものは一人もいないんです。つまりどう変わるかわからない将来を生きてゆく、それが子どもです。したがって将来、子どもがどんな苦難に遭遇するかはまったく予想できぬということ。わが子には苦労させたくないとの親のエゴでいくら思っても、親亡き後、親よりも苦労することがいっぱいあるかもしれない、そのように腹をすえて子どもの将来を見通すべきです。そこで言えることは、例え親よりも苦労することがあっても親よりも遅しく、親よりも粘り強く人生を生き抜いてゆく力と知恵とを子どもに与えておく、それが一番正しい親の愛情であり義務であると思います。

そのためにはどうしたらいいか。結論から先に言います。負ける練習、恥をさらす訓練、カッコの悪い体験を、できるだけ多く子どもにさせておくことです。人間の身体は使ったところが強くなります。これは至極単純な原理です。その反対、使わぬところはどんどん弱くなります。現代っ子にとって一番弱いところはどこか? 負けに耐える心、恥に堪える心、カッコ悪さに堪える心です。負けるということは、自分の思いが通らぬことです。

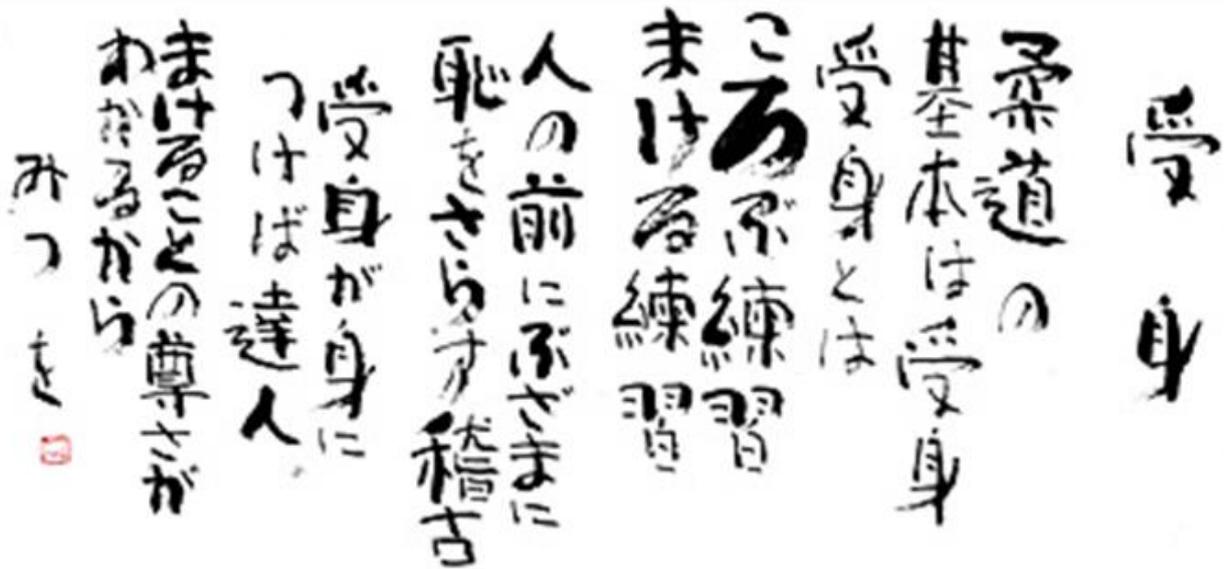
自分の思いが通らぬ時、子どもは次の二つのどちらか一つの行動をとります。

- 1 じっとがまんして自分の欲望にブレーキをかける。
- 2 だだをこねて思いを通す。

世の親は大体において後者で、大事に大事にだだをこねさせて子どもの思いをみんな通させる。年寄りのいる家では、それに拍車がかかる。いわゆる過保護さまさまです。つまり、子どもがガマンをする体験、ガマンをする機会を、親自身の手でみんな取り上げてしまうのです。そしてわずかなことにもガマンできない、ブレーキのきかない、わがまま放題な子どもを作り上げておいて、しかもその子に手を焼いているというのが大方の現状です。長い人生には、自分の思いが通らぬ場合がたくさんあります。思うようにならぬのが世の常であり人生です。それならば人生の的を思うようにならぬほうに合わせるべきです。思うようにならぬーそれはことばを代えれば負けることです。カッコよく勝つことではありません。自分の思い通りカッコよく勝つことは人生ではごくまれです。だから人生の的を確率の少ない「勝つこと」に合わせないで、確率の多い「負ける」方に合わせておくことです。それが負ける練習です。小さい時から負ける練習をさせておけば、成人してから負けに強い人間になれます。失敗してもへこたれないたくましい人間になれるはずで、人生におけるどんな波風、どんな屈辱にも堪えて、まっすぐに自分の道を歩いてゆ

けるような、しっかりした「いのちの根」を作っておいてやる、それが本当の愛情だと思います。ラクしてカッコいいこと、つまり勝つことばかり考えて、過保護に育てられた子どもは、その分だけ「いのちの根」が浅く、親なき後の本人の負担が大きいことを知るべきです。」

以上、相田みつを著『にんげんだもの』（文化出版局）からでした。



相田みつを、相田一人著『相田みつを 肩書きのない人生』（文化出版局）、相田みつを美術館

さて、昨日は成年年齢が18歳に引き下げられた最初の成人の日でしたが、私は子どもが高校・中等教育学校を卒業する18歳まで（あるいは社会に出るまで）は、「負ける（失敗する）」練習をする時期だと考えています。特に、社会人としての基礎を培う中学・高校、中等教育学校でのこの6年間は主体的に自分事として考え、動き、その結果まで責任を負う、その中でたくさん失敗をする時期だと考えます。皆さんは日々の学習活動や行事などを通して、より良く生きることを学んでいます。そこでは主として成功することや勝つこと、物事をより効率よく進めることなどをめざしています。それらはもちろん大切なことです。しかし、失敗したとき、負けたときどうすればよいのかを考えることがより大切だと考えます。失敗を恐れて過度に慎重になったり、チャレンジしようとしなかったりすることの方が残念です。逆に、最悪のケースを考えておくことは決してネガティブではないことも付け加えておきます。やり直しがきく、特に学校という守られた環境にいる今だからこそ経験してほしいと思います。



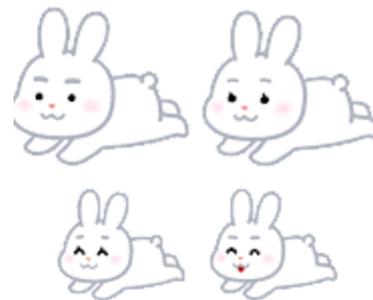
周到に準備し真剣に取り組んだ結果、負けたり失敗したりしてもいいのです。また、失敗を許し合い、何度でもやり直せる雰囲気や社会が大切ではないかとも考えます。人として強く逞しくなるためにはトライ&エラーを重ねていくこと。その時に、その過程と原因をどのくらい突き詰めて考えられるかがより重要です。そして、その経験が結果として、より良く豊かな人生を送ることにつながるのだと信じています。

年末の校長講話で触れたサッカーワールドカップ日本代表の勇姿。絶対負けられない試合でドイツ、スペインを粘り強く果敢に撃破。決勝トーナメントクロアチア戦でのPK戦1番目キッカー南野選手はじめ立候補した選手たちは、この「勇氣ある失敗」を4年後の「新しい景色」に繋げていくと確言しています。

いい大人が嘘やごまかしでつまずき、取り返しのつかないことになるニュースを頻繁に見かけます。どうか皆さんは誠実に、そして今のうちに小さな失敗や負ける練習を重ね、例え失敗や過ちを犯したとしても潔く素直に認め謝れる人、恥をさらけ出せる人、人の痛みが分かる人に成長してほしいと願っています。

真面目に、精一杯努力した上で失敗する人を、私たちは全力で支えていきます。それは卒業した後も同じです。そして、教育目標「佐渡の歴史と文化に誇りを持ち、豊かな知性と人間性を身に付け、世界的視野で活躍できる人」であり続けてほしいと思います。

私自身、失敗や挫折、恥ずかしい思いもたくさんしてきました。自戒を込めて心新たにする1年のスタートの日として、勝つことばかりではなく負けることから学ぶこと、皆さんが今後失敗を重ねながらも、それを素直に認め、挫折に奮起して逞しく成長していくことを願っています。



今日は新年のスタートに際して、①「学び続けること」と、いつでも、いつからでもできる「学び直し」の大切さ、②失敗からの教訓を糧に、相田みつをさんの『負ける練習』という詩の話をしました。

今年はうさぎ年、うさぎのように飛躍し輝かしい素晴らしい1年となるよう、明るく元気に歩んでいきましょう。皆さんの健闘、大願成就を祈っています。

2月の主な行事予定

| | |
|---------------------------|-------------------------|
| 2月3日(金)～8日(水) 2学期期末考査(後期) | 6日(月)、7日(火) 2学期期末考査(前期) |
| 2月17日(金) PTA総会、授業参観(1～5年) | |
| 2月21日(火) NRT(1・2年) | |